



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者
大分県議会・県民クラブ
守永 信幸
〒870-0022
大分市大手町3-2-9
TEL 097-534-2021
FAX 097-536-0595

もりちゃんの活動記録

新春のお慶びを申し上げます

県外企業参入の施設園芸企業が初出荷式



▲▶ベビーリーフの栽培施設と試食会場

11月28日、大分ほっぺリーフ株式会社が、ベビーリーフを初出荷しました。この会社は、熊本県の有限会社ベジタブル・ユーと静岡県の農産物卸(株)J O I Nが共同出資して大分市に農業参入した企業です。

大分市松岡に整備された32棟、約2ヘクタールのハウスでは、バターレタスというベビーリーフを栽培しており、ここで栽培されたベビーリーフは関西、関東へと運ばれ、他の施設のベビーリーフと混ぜ合わせて販売されます。季節によって異なりますが、一日に0.5棟から1棟を収穫して出荷します。社員は9名。今後、栽培面積を徐々に拡大する計画とのこと。

私が唱える「一次産業の活性化で就業者増加」に合致するもので、雇用を生み出しながら、産業として伸びていくことに期待します。

大分大学駅と敷戸駅が無人化

大分大学前駅と敷戸駅が、12月1日からスマート・サポート・ステーション（SSS）に移行し無人駅となりました。駅には防犯カメラやインターホンが設置されましたが、プラットホームが狭く、障がいのある方々や高齢者にとって、安心して乗降できるように改良されてはいません。

障がいのある方々への合理的配慮の提供が可能なのか疑問が残されたままです。この無人化に対しては、11月27日に誰もが安心して暮らせる大分県をつくる会が主催して「JR駅無人化に抗議する集会」が行われました。



▲大分大学前駅



◀敷戸駅構内。プラットホームがやや狭い。

JR九州は、公共交通を支える会社として、安全運行の管理と住民の利便性の向上とを大きな責務とするべきです。株式上場企業となり、株主に対する経営責任も発生しますが、優先順位は株主総会できちんと議論されるべきです。

大分市内のSSSの問題だけでなく、日田彦山線の復旧についても地元自治体は鉄道での復旧を希望しており、復旧後の運営の在り方も含めて協議を深めていく必要がありますが、JR九州の姿勢が問われます。

暮らしの相談承ります。

政治は暮らしに直結しています。守永信幸が暮らしの相談を承り、専門家とともに解決をめざします。まずは、お電話を！

TEL 097-534-2021
FAX 097-536-0595

障がい者差別解消への体制強化を求めて

12月12日の今定例会最終日に、障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる県づくり特別委員会委員長として報告書の取りまとめ概要について本会議で報告し、議長に報告書を提出しました。

この特別委員会は、2017年9月15日に設置され、付託事件として(1)日常生活における合理的配慮のあり方、(2)就学・就労における合理的配慮のあり方、(3)障がいのある方々が芸術・文化活動、スポーツ交流活動等に参加できる環境づくりの3件を掲げて1年3ヶ月余り調査をしました。調査にご協力頂いた県執行部や参考人の方々に、心からお礼を申し上げます。



▲特別委員長として報告する守永信幸

◇日常生活における合理的配慮

障がいのある方々は、常に制限を受けながら日常生活を送っています。自宅での不便を無くすことは、それぞれの障がいに合わせた工夫が施されていますが、一步外に出るとユニバーサルデザインすら準備されておらず。

コストによっては対応出来る場も限られます。障がいのある方々が自由に外に出て行くには、彼らの声を受けとめて合理的な配慮を提供する姿勢を多くの方々が持ち、差別の解消を図ることが重要です。



▲車いすには、多くのバリアが

県条例では差別事案の解消を進めるため、相談窓口の設置を規定し大分市大津町の県総合社会福祉会館1階に、大分県障がい者権利擁護センターを設置しています。2018年度は594件の相談を受けるという多忙な状況ですが、相談に応じるには様々な情報を持たないとならないため、相談員の能力向上が大きな課題となっています。また、差別への気づきの能力を養うことも必要です。

◇就学・就労の機会を広げる

就学・就労における合理的配慮は、障がいのある方々の抱く将来への夢を広げることに繋げる大切な課題です。当事者の親や家族にとって、親亡き後の当事者の生きる力を身につける機会として必要とされています。ソフト、ハー

ド両面での環境の拡充を提言しました。

◇芸術文化・スポーツ活動の環境

障がいのある方々が、芸術・文化活動やスポーツに参加できる環境を整えることは、生活を豊かにする上でも大切です。これらハリハビリを楽しく行うことであると同時に、暮らしに精神的な豊かさを添えるものでもあります。

しかしスポーツをするには公的施設でも道具が整備されておらず、新たに始める方々には、とても高いハードルとなっています。このハードルの解消が求められています。

◇まず県条例の周知を

本条例では、「全ての県民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現し、誰もが安心して心豊かに暮らせる大分県づくり」を目的に掲げています。合理的配慮の提供を謳っている県条例をより多くの県民の皆さまに知って頂き、障がいのある方々に「遠慮しなくて良いんだよ」と伝えることと併せて、合理的配慮の提供可能な方々には「協力を求める人が居ること」を念頭に置いていただくことが大切です。県条例の考え方を多くの方に知って頂き、障がいのある人だけでなく、全ての人々が包括されて暮らせる社会づくりを進めてまいります。

大分県条例の啓発資料は、大分県のホームページでご覧になれます。アドレスは、以下の通りです。

<https://www.pref.oita.jp/site/syougai/kokoroyutakajyourei.html/>

「障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例」の基本原則

基本原則

相互に人格と個性を尊重し合える共生社会実現に向けて以下の基本原則を定めました。

- ①障がいのある人は、必要な支援を受けて、自らの意思により、自分の人生を自分らしく生きることができる。
- ②障がいのある人は、社会の構成員としてあらゆる分野の活動に参加する機会が確保される。
- ③障がいのある人は、どこで誰と生活するかを選択でき、地域社会で共生することができる。
- ④障がいのある人は、意思疎通、情報取得手段の選択機会の確保・拡大が図られる。
- ⑤障がいを理由とする差別解消施策は性別、年齢、障害の状況等に応じて実施される。
- ⑥障がいを理由とする差別の解消等は全ての県民が取り組むべき課題である。

県の責務

- ①県は、障がいのある人に対する理解を深め、障がいを理由とする差別の解消を図るための施策を実施しなければならない。
- ②県は、障がいのある人の性、恋愛、結婚、出産、子育て、親なき後の生活の維持及び防災対策に関する課題等の人生の各段階において生じる日常生活及び社会生活上の課題の解消に努める。

広瀬知事の五期出馬をどう考えるか

今定例県議会の冒頭、広瀬知事が5期目出馬を表明しました。様々な団体からの出馬要請を受けて熟慮した結果の決意とのこと。



広瀬勝貞知事

知事の5期は長くなりすぎると懸念する方がいます。その懸念も確かにありますが、長いからというだけで判断すべき問題ではありません。大分県の未来を切り拓いていく上での確かな判断と、リーダーシップを発揮できるかを見るべきです。

広瀬知事は2003年4月に就任。景気後退による県税収入の減少などにより大分県の財政が悪化した中で、県財政の立て直しにゼロからの行財政改革を断行、併せて「人は宝」として人材育成に力を入れてきました。行財政改革を進めながら、限られた財源で県政を運営するため「選択と集中」により重点的な課題に取り組みました。選択すべき課題が変化する中で、組織や組織人員をどう変えるかが大きな課題でもありました。現場主義を徹底し、なおかつ必要最

少限の人員で、職員の健康やモチベーションを維持しながら県政を進めていくのは並大抵のことではなかったと思います。相次ぐ災害の発生もあり、職員の厚生面では、今後緊急的に取り組まなければならない課題が残されています。官・民の働き方改革に、どの様に取り組むのか注目しなければなりません。

今後話題に上るインフラ整備については、県経済の発展や県民福祉の向上のために必要なインフラであるか否か、財政状況を踏まえながら、的確に判断できるかが重要となります。

厳しい行財政改革をやり抜いた広瀬知事ですが、的確な判断を下すためには、判断材料を現場から正確に受けとめなければなりません。広瀬知事は「何か問題があれば、きちんと指摘してくれ」と幹部職員に語っていたと、私は耳にしました。その気持ちを知事自身が持ち続け実践できるのかを見極めなければなりません。

私たち県議会議員も県政二元代表制の一翼を担う議員団として、県民の皆さまの声を受けとめ、変えるべきところを変え、誤りを厳しく指摘する姿勢で臨んで参ります。皆さまの叱咤激励をお願い致します。

ドーム周辺の交通対策について

11月16日の夜、サッカー日本代表とベネズエラとの国際親善試合が大分市松岡の大銀ドームで行われました。この試合を観戦するために会場に向かう車が集中し、あいにくの雨も手伝って大銀ドームを中心に周辺では大渋滞が発生しました。渋滞の総延長は21Kmにも上ったと言います。選手団も予定より大幅に到着時間が遅れ、試合前の準備などに支障もあったのではないかと思います。

新聞でも大きく報道されていました。今定例県議会でも県民クラブの小嶋秀行県議をはじめとして数人の議員が一般質問で取り上げました。

県当局の話では、今回の試合は、民間が全てを企画して取り組んだもので、県警の協力による規制もかけていなかったことに加え、対策が十分に講じられていなかったとのことでした。また会場近くの駐車場で、前売り駐車券が別にある事を知らずに駐車場に入ろうとして係員から止められるなど、混乱が生じ、円滑に駐車場への誘導が出来なかったことで渋滞が発生したようです。帰宅ラッシュと重なる時間帯には会場周辺に居住される方々の生活にも支障を来したと思われます。小嶋議員からは、高速道路の松岡パーキングエリアにスマート・インターチェンジを設置して高速道路から直接会場に誘導するルートを整備してはどうかとの提案もありました。

大分市松岡のスポーツ公園は2001年3月に竣工したビッグアイ（現大銀ドーム）を



▲ドームの隣に武道スポーツセンターを整備

核とした施設群ですが、中心市街地から離れていることで、アクセスについては様々な課題がありました。サッカーワールドカップやドームで行われる大規模イベントなどは、離れたところに駐車場を確保してバスで送迎する「パークアンドライド」やシャトルバスの運行などにより個人の乗用車を会場に近づけない工夫が凝らされる中で運営されました。

しかし、Jリーグ等で観客の多いときには、常時渋滞が頻発しており、周辺に暮らす方々にとっては悩みの種。観客を円滑に招き入れることと併せて、周辺住民の暮らしを守るためにも具体的な解決策が講じられるべきです。今後ドームや武道スポーツセンターを活用した様々なイベントの誘致を展開する上でも解消すべき課題です。2019年のワールドカップラグビーでのパークアンドライドなどの備えと併せて、今回の問題にしっかりと対処しなければなりません。

お知らせ

- ◇常任委員会は「土木建築委員会」に所属、特別委員会は「障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる県づくり特別委員会」で委員長を務めています。
- ◇行政や暮らしに関わる相談をお請けしています。お気軽にご連絡下さい。
- ◇グループでの意見交換会に参加しますので、お声がけ下さい。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。年会費3千円です。守永の活動をご支援下さる方、ご連絡下さい。(連絡先：097-534-2021 担当：寺山 9:00～16:00)

編集後記

▶障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる県づくり特別委員会の調査活動が間もなく終わります。慌ただしく時間が過ぎていきました。▶県条例の普及にまだまだ疑問符が拭えないのが実感です。条例の理解者を増やし、実践してみようと思う方々を増やすことから始めなければ意味がないと感じる昨今です。▶まずは私が4月を乗り切らなければ・・・。